

## 納得したものしか売らない「こだわり商店」

自分の舌で確かめて、自信を持って勧められる商品だけを販売していこうと全国20～30ヶ所の町村を回り、栃木県茂木(もてぎ)町と出会った。こだわり商店は平成19年10月に早稲田商店会の空き店舗を活用して、まず、茂木町の特産品を中心に、おいしさや生産方法などにこだわりのある全国の農産物や加工品、飲料の販売をはじめた。その後、宮城県南三陸町、東京都檜原村とさらに群馬県伊勢崎市、茨城県常陸太田市との連携へと発展し、現在5市町村のアンテナショップへと発展している。アンテナショップといっても、特産品なら何でも売るわけではない。店長自らが納得したものでなければ売らないというこだわりの店である。

### 東京都新宿区

総人口：281,971(人)  
世帯数：169,449(世帯)  
総面積：18.23(km<sup>2</sup>)  
人口密度：15467.4(人/km<sup>2</sup>)  
(平成22年3月1日現在)

### 早稲田大学周辺商店連合会

都電早稲田駅から2分、地下鉄東西線早稲田駅から7分。  
早稲田の街は早稲田大学早稲田キャンパスを取り巻くように、さらには高田馬場や江戸川橋方面に伸びるように7つの商店街、あわせて約400の加盟店がある。



### 背景ときっかけ

早稲田大学周辺商店街は、最近では「環境のまち早稲田」といわれ、新築マンションには環境意識の高い人々に移り住むようになってきている。食品の安全志向、本物志向のこだわりを持った店は必要とされていると考え、地元スーパーでの10年の経験を活かせるこだわり商店の開店を思い立ち、全国市町村のこだわり食材を探索した。

### 取組内容

こだわり商店は、経費節減のため元麻雀屋の空き店舗を、内装もそのまま借りることにして開業している。

最初に茂木町を選んだのは、「土が肥よく」、「水がキレイ」、「実直な生産者」と「入郷の棚田」の美しさや鮎もあがる清流「那珂川の“やな”」の素晴らしさ、町をあげて生ゴミ・牛糞・籾殻等を集め「有機質堆肥」を作り、有機肥料で作ったおいしい農産物や加工品を作っていることである。そして、これらの優れた品々を、消費者に伝えたいと思ったことによる。

その後、宮城県南三陸町、東京都檜原村とも連携することになったが、仕入れに際しては必ず産地に出向き、生産者と会って、舌で確かめた上で、これらと思った商品だけをお客様に販売するようにしている。

商品の陳列と構成は、移動可能な陳列棚やフゴンを使用し、見事にわかりやすいブロック構成がなされている。ブロック構成は産地別ブロック、調味料ブロック、惣菜ブロック等の商品別ブロック、新鮮野菜ブロックと壁面の産地のPRポスター等の情報案内ブロックの3つからなる。

名称：こだわり商店（平成17年10月開業）

所在地：東京都新宿区西早稲田1-9-13

面積：約7坪

販売品：栃木県茂木町、宮城県南三陸町、東京都檜原村、群馬県伊勢崎市、茨城県常陸太田市の産直品および全国の産直品／米、野菜、魚、肉、惣菜、調味料、農水産加工品、乳製品・飲料品、菓子等 約700アイテム

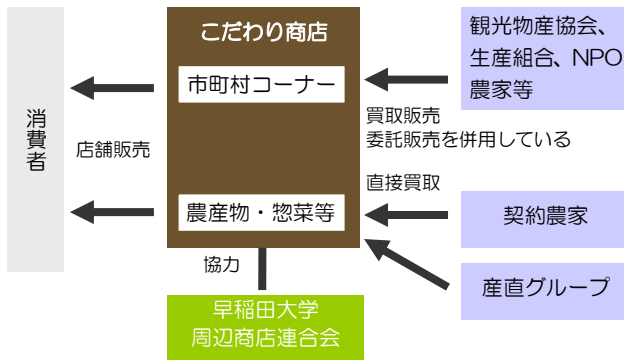
販売方法：観光物産協会・生産組合等からの買取&委託販売、直売グループ・仲卸からの買取販売

営業時間：[月～金] 午前10時から午後9時 [土曜祝日] 午前10時から午後8時(定休日 毎週日曜日)

販売員：スタッフ2名



## 事業の仕組み



※市町村関係は、観光物産協会、生産組合、NPOを通して購入、農家から直接購入する場合もある。その他の商品は、農家から直接購入と産直グループから直接購入している。



## 取組効果

- 全国の市町村から当店への視察があり、それが縁となって特産品などの食品取引となることがある。
- 新聞やテレビで紹介されることによって、知名度が上がり、対等に取引交渉ができる環境となってきた。
- 商圈は、1km圏内が核であるが、区外、都外からのリピート顧客が出てきている。月に1~2回ジャムや調味料と野菜などを買っている。
- 買い物客とは常に商品情報を交換しているので、買い物客との商品情報、食材知識の対話が良く交わされている。



## 取組上の工夫

- 販売商品は、自分で直接確かめ、納得したものしか売らないという信念で仕入れをしている。
- 市町村のアンテナショップだからといって、無条件に店頭陳列しない。お土産は置かない。
- 市町村限定店舗ではなく、広く全国の逸品を探し、お勧めできる食料品を販売していく。
- 逸品掘り起こしのPR、市場調査の場として、「店頭貸出」(什器・場所提供)を行っている。
- 地域の高齢者雇用や福祉施設の販売研修、修学旅行生による店頭販売などにも取り組んでいる。



## 今後の展望

- 仕入れたい食材によく出会うが、生産者との直接取引をする場合、ロットの問題、送料負担の問題、安定供給の問題が相手先ごとに全く異なる。解決すべき大きな課題である。
- 地域に貢献する商店として障がい者就労支援、アトム通貨との連携による環境活動、店舗を語らいの場として開放したり、お母さんの子育て支援の場としても提供しており、今後も継続してゆく。
- 茂木町の産地見学バスツアーなど消費者と産地をつなぐ食と農の連携を推進していく。



こだわり商店 (外観)



生産者の顔写真と説明POP



野菜陳列と調味料等の棚陳列



茂木町コーナーと壁面案内コーナー